

4. 南加賀地域 広域都市圏マスタープラン

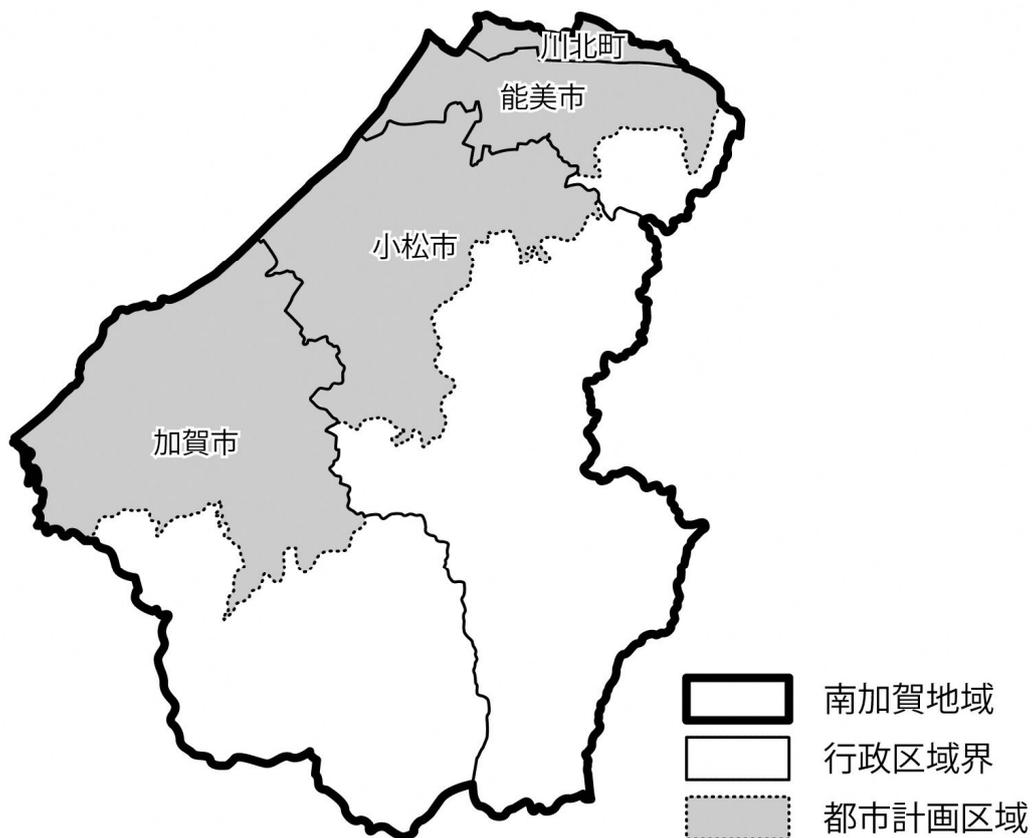
1) 地域の概況

(1) 地域の構成

南加賀地域は小松市、加賀市、能美市、川北町の3市1町で構成され、全市町で都市計画区域が指定されている。

都市計画区域の範囲及び規模は、次の通りである。

都市計画区域名	市町名	範囲	面積
小松都市計画区域	小松市	行政区域の一部	12,759ha
加賀都市計画区域	加賀市	行政区域の一部	14,619ha
能美都市計画区域	能美市	行政区域の一部	6,034ha
川北都市計画区域	川北町	行政区域の全域	1,464ha



(2) 地域の概況

本地域は、石川県南部に位置し、越前加賀海岸国定公園をはじめとする白砂青松の海岸線と緑豊かな丘陵地、ユネスコの生物圏保護区に指定されている霊峰白山の眺望やラムサール条約登録湿地の片野鴨池、清流を湛える手取川などの自然や文化資源に恵まれ、観光・レクリエーションにおいては国内有数の加賀温泉郷や史跡、観光施設を有している。

本地域では、小松空港をはじめ、本県と福井県・富山県などを連携する北陸自動車道が整備されているほか、一般国道8号小松バイパスや南加賀道路、加賀海浜産業道路、能美東西連絡道路などの整備が進められており、県内外との交流・連携の拡大と一層の地域振興が期待されている。さらには北陸新幹線延伸に向けた拠点強化等により、三大都市圏などとの広域交流のさらなる拡大が期待されている。また、利便性の高い交通ネットワークを活かした産業集積や、北陸先端科学技術大学院大学を核とした「いしかわサイエンスパーク」において先端科学技術分野の産学官連携が進んでいる。

本地域の人口は、平成27年現在で229,333人であり、過去20年では地域全体で人口の大幅な増減はみられないが、小松市及び加賀市では減少傾向にあり、能美市及び川北町では増加傾向にある。また、65歳以上人口は28.1%を占め、県全体の27.5%とほぼ同様に高齢化が進行している。なお、本地域では、ごみ処理やし尿処理、医療などの分野で広域行政として連携しているほか、南加賀広域圏事務組合を構成するなど生活圏内の日常的なつながりを強くしている。

(3) 地域の主要課題

本地域は、城下町として発展した小松市・加賀市を中心に市街化が進んできた。しかし、モータリゼーションの進展に伴って、都市機能の郊外化が進み、中心市街地の活力低下がみられる。また、少子高齢化の進行、観光入り込み客数の伸び悩みなどの問題が生じている。

このため、北陸新幹線延伸をはじめとした高速交通網の整備充実による大都市圏からの時間距離の短縮効果を背景として、新幹線駅周辺の拠点強化や地域連携のネットワーク基盤づくり及びさらなる産業集積の推進、美しい海岸景観・白山眺望、温泉街、歴史・伝統・文化を活かした観光地の創出など、地域振興に向けた地域全体のポテンシャルの向上が求められている。

また、人口減少社会においても地域の経済・活力を維持・発展させるため、区域区分制度や立地適正化計画制度等による居住や都市機能をまちなかや地域の拠点へ適切に誘導し、既成市街地の再整備などと合わせて集約型のまちづくりを進めることが求められている。

さらに、国内外からの観光客に対しては、わかりやすい案内サインの整備や公共交通の確保・維持、歩行者・自転車にやさしいみちづくりなどが必要であり、それらの整備とあわせて、バリアフリーの環境整備や地域での見守り体制の充実など、高齢化が進行する中においても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、多様な主体の連携・協働による取り組みが求められている。

2) 地域づくりの基本理念

本地域は、豊かな自然と多様な歴史・文化、伝統工芸産業、加賀温泉郷などの観光資源をはじめ、小松空港などの高速交通体系に恵まれ、また、北陸先端科学技術大学院大学も立地している。

これらの優れた地域資源や都市基盤の整備効果を最大限に活かすとともに、多様な主体の連携・協働により、次の基本理念に基づき「北陸新幹線延伸による拠点の強化とさらなる産業の振興に向けた活力あるまちづくり」を進め、交流人口の拡大及び地域の活性化を図る。

(1) 広域的な連携・交流を強化するネットワークづくり

小松空港の国際・国内線網を維持・拡充するとともに、北陸新幹線延伸による三大都市圏をはじめとしたさらなる広域的な交流の拡大を図る。また、一般国道8号（小松バイパス、加賀拡幅）や北陸自動車道、小松白川連絡道路などの多重な道路網や能美根上スマートICなどの整備・充実に合わせ、駅周辺や観光地の景観に配慮した拠点整備に加え、空港・駅・中心市街地・観光地などを結ぶネットワークの整備・充実などにより、本地域への交流人口の拡大を図る。

また、社会基盤の耐震化や適切な維持管理による長寿命化を図るとともに、地震・津波、風水害・雪害及び土砂災害等の自然災害並びに大規模火災等に対し、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策の強化を図る。

(2) 活力ある産業拠点の創造と活力ある地域づくり

本地域はものづくり産業の集積が進められており、今後も北陸自動車道のインターチェンジ周辺や主要な幹線道路周辺など利便性の高い地域において、農業と調和した計画的な産業の集積を図る。

また、北陸先端科学技術大学院大学を核とした情報・通信関連企業などの立地や、医療・福祉・健康分野など新規産業の創造による産業基盤の強化を図るとともに、既存地場産業の高度化や商業・業務機能の集積に努める。

(3) 歴史文化や自然環境を活かした広域的な交流拠点づくり

小松のものづくりのルーツであり日本遺産に認定された「石の文化」や九谷焼・山中漆器を中心とした伝統工芸産業を振興するとともに、隣県との広域連携を密にしながら、加賀温泉郷や歴史・文化施設などの整備・充実や周辺の歩行者・自転車にやさしいみちづくりとともに、良好な自然環境・眺望環境の保全・創出などにより、通年型・滞在型の観光・交流拠点づくりを進める。

(4) 成熟社会に対応した安全・安心で集約型のまちづくり

人口減少や高齢化を見据え、区域区分制度や立地適正化計画制度などの活用により、生活に必要な機能等の多様な都市機能をまちなかや地域の拠点へ集約を図るとともに、災害に強い市街地整備や空き家等の有効活用など、個々の都市の特性に合った集約型のまちづくりを推進する。

また、民間活力を活かし、まちなかの商業機能の再生・充実や低未利用地の有効活用、歴史・文化的財産を活かした魅力あるまちづくりを推進する。

(5) 多様な主体による地域主体のまちづくり

住民やボランティア、NPO等の多様な主体が一体となり、郷土への愛着や誇りを育むとともに、空き家の活用やコミュニティの持続・再生などの地域の課題解決や価値向上に向け、行政との連携や多面的できめ細やかな支援により、地域主体のまちづくりを進める。

3) 地域構造の基本方針

南加賀地域は、越前加賀海岸国定公園や白山眺望などの豊かな自然、山中漆器や九谷焼などの伝統工芸産業、加賀橋立や加賀東谷の伝統的建造物群等を保存・継承するとともに、加賀温泉郷における温泉情緒のある街並み整備や個性ある温泉地づくりに取り組み、観光振興を図る。

また、小松空港の国際化や物流拠点化、北陸新幹線の整備ならびに「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想の着実な推進による交通基盤の機能維持・向上を図り、ものづくり企業のさらなる集積と交流人口の拡大を進める。

(1) 拠点となる都市

① 小松

小松では、南加賀地域の中核都市として地域の一体的な発展を図るため、まちなかへの多様な都市機能や居住の誘導とともに、総合的な交通網の整備や歴史・文化的財産の活用などにより、個性と魅力あふれる拠点の形成に努める。

空港・高速道路・新幹線の高速交通体系の結節機能を活かした産業集積や交流人口の拡大のほか、人と自然の共生による緑に包まれた定住環境の充実を図る。

② 加賀

加賀(加賀、山中)では、緑豊かな自然や温泉資源などの地域資源を有効に活かすとともに、地域内及び他県との交流の促進にむけ、北陸新幹線駅周辺の拠点強化や公共交通、自転車等の利用環境の充実などにより、滞在型・回遊型の温泉観光地としてにぎわいと活力の創出を図る。

日常生活に必要な都市機能の充実とともに、自然環境や地域の歴史・文化と調和した定住環境の形成を図る。

③ 能美

能美(根上、寺井、辰口)では、水と緑の豊かな自然環境を活かすとともに、各拠点への必要な都市機能の集約を図り、ゆとりとうるおいのある移住・定住空間の形成を図るほか、地域資源である歴史・文化を活かしたまちづくりを行う。

恵まれた環境を活かし、高付加価値商品の研究開発、先端企業などの立地促進を図り、職住近接型で利便性の高い創造的な生活と研究・生産の場の形成を図る。

④ 川北

川北では、水と緑の豊かな自然環境を活かした定住促進を図るとともに、手取川周辺の工業団地の機能を拡充し、産業の集積を図る。

(2) 土地利用の方針

① 市街地ゾーン

農業的土地利用との調和を図りながら、駅周辺など交通利便性が高い地域において多様な都市機能や居住を誘導し適切な密度を維持することで、機能的かつ利便性が高く、誰もが安心して暮らせる市街地を形成する。

また、都市基盤の計画的な整備及び適切な維持管理を進めるとともに、空き家・空き地等の低未利用地や既存ストックの有効活用を図りながら、住居、商業、工業、緑地等の土地利用を計画的に配置・誘導し、良好な都市環境を形成する。

さらに、北陸新幹線駅の機能充実や交通結節点の機能強化を図り、日常生活においても交通の利便性の高い市街地を形成する。

② 農業ゾーン

田園地域では、地域を代表する重要な田園景観や眺望景観の維持・保全を図る。また、既存集落では生活に必要な都市機能の確保・維持のほか、公共交通により市街地とのアクセスを確保し、集落の維持・活性化を図る。

幹線道路の沿道においては、適切な土地利用コントロールにより、まちなかや地域の拠点への機能集積を推進する。

③ 自然保全ゾーン

越前加賀海岸国定公園に指定される沿岸部や山中・大日山県立自然公園、ラムサール条約登録湿地の片野鴨池、地域の骨格を形成する能美江沼・加越山地などの自然環境を保全・活用するとともに、自然災害の防止や安全確保の機能を維持する。

(3) 地域の拠点

① 産業拠点

北陸先端科学技術大学院大学を核としたいしかわサイエンスパークは、産学官連携による研究開発機能の集積と交流機能などの充実により、自然に恵まれた国際的な研究開発拠点として充実を図る。

小松市南部工業団地をはじめとする工業集積地においては、小松空港、北陸自動車道、JR北陸本線などの広域ネットワークを活かしさらなる集積を図るとともに、既存工業の高度化も促進し、ものづくりの拠点地区として充実を図る。

② レクリエーション拠点

小松運動公園、中央公園や辰口丘陵公園とそれに隣接するいしかわ動物園、広域公園である木場潟公園などの公園緑地はレクリエーション拠点として位置付け、地域住民の憩いの場、交流の場として整備充実、適切な維持管理に努めるとともに、防災拠点としての活用を図る。

加賀温泉郷（片山津、山代、山中、栗津温泉）は、我が国有数の観光・保養地として、総湯を核とし、宿泊施設や商店街及び住民と連携しながら地域の個性を活かした特色ある温泉保養機能と文化交流機能の充実を図る。

(4) 連携軸

① 広域連携軸

小松空港や北陸自動車道、小松白川連絡道路、北陸新幹線などの利用により、三大都市圏及び福井県・岐阜県、石川中央地域等との広域的な連携を強化する。

② 都市連携軸

一般国道 8 号、一般国道 305 号、一般国道 360 号、一般国道 364 号、加賀海浜産業道路、加賀産業開発道路、加賀産業連絡道路、能美東西連絡道路、川北縦貫道路、南加賀道路などの幹線道路の利用や、北陸自動車道におけるスマート I C の整備により、地域内の各拠点間の交流・連携を強化し、地域の一体性を高める。

また、地域間を結ぶ自転車道の整備・充実によりさらなる交流の拡大を図る。

(5) 広域都市施設

ごみ処理施設やし尿処理施設、医療施設などの広域的な都市施設は、自治体間の相互連携を強化するとともに、適切な配置を行うことにより、地域住民の生活の安全性や快適性を確保する。

南加賀地域
広域都市圏マスタープラン附図
(連携イメージ図)

